

氏名 (法人にあっては名称)	中国電力株式会社
住所	広島県広島市中区小町4-33

自社等発電所(*1)の有無	有		
電気事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資本金 : 1,970億円</li> <li>・サービス区域 : 鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県 他</li> <li>・発電設備 : (2022年3月31日現在) <ul style="list-style-type: none"> <li>・火力 8カ所 7,054 千kW</li> <li>・水力 90カ所 2,906 千kW</li> <li>・原子力 1カ所 820 千kW</li> <li>・新エネルギー等 2カ所 6 千kW</li> <li>&lt;合計&gt; 101カ所 10,786 千kW</li> </ul> </li> <li>・販売電力量 : 471億kWh (2021年度) (2022年3月31日現在)</li> <li>・代表取締役会長 : 芦谷 茂</li> <li>・代表取締役社長執行役員 : 中川 賢剛 (2023年6月28日現在)</li> </ul>		
電気の供給における温室効果ガスの排出の状況	年度	基礎二酸化炭素排出量	把握率
	前年度実績 (2022年度)	2,731 (千t-CO <sub>2</sub> )	99.89 (%)
電気の供給における温室効果ガスの排出の量の抑制に関する措置の実施状況	年度	基礎排出係数(*2)	調整後排出係数(*3)
	前年度目標 (2022年度)	極力低減 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)	極力低減 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)
	前年度実績 (2022年度)	0.537 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)	0.545 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)
	(措置の実施状況)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・水力発電および他社受電が減少したことなどにより、火力発電比率が増加したため、基礎排出係数は0.537 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh)、調整後排出係数は、0.545 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh) となった。</li> <li>・なお、基礎排出係数・調整後排出係数ともに暫定値であり、国からの公表をもって確定となる。</li> </ul>			

\*1 自社等発電所とは、自己が所有する発電所及び経営支配下においている子会社が所有する発電所をいう。

\*2 基礎排出係数とは、市内への電気の供給に伴う二酸化炭素排出量(基礎二酸化炭素排出量)を市内への電気の供給量(電気供給量)で除したものをいう。

\*3 調整後排出係数とは、基礎二酸化炭素排出量に固定価格買取調整二酸化炭素排出量を足したものから、電気事業者が排出量調整無効化した国内及び海外認証排出削減量等を控除したものを、電気供給量で除したものをいう。

電気の供給における再生可能エネルギーの利用の拡大に関する措置の実施状況	自社等発電所における再生可能エネルギーによる発電量の割合の拡大に関する措置の実施状況		
	年 度	再生可能エネルギー発電量(*4)	再生可能エネルギー導入率(*5)
	前年度目標 (2022年度)	可能な限り導入 (千kWh)	可能な限り導入 (%)
	前年度実績 (2022年度)	27,604 (千kWh)	7.54 (%)
	(措置の実施状況)		
電気の供給における未利用エネルギー(*8)による発電量の割合の拡大に関する措置の実施状況	調達分を含む再生可能エネルギーの環境価値の確保量の割合の拡大に関する措置の実施状況		
	年 度	環境価値の確保量(*6)	環境価値の確保率(*7)
	前年度目標 (2022年度)	可能な限り導入 (千kWh)	可能な限り導入 (%)
	前年度実績 (2022年度)	1,118,123 (千kWh)	21.04 (%)
	(措置の実施状況)		
電力発電所における熱効率の向上を図るための措置の実施状況	・経済性を勘案しつつ、高炉ガスや廃棄物などの未利用エネルギーにより発電した電力の購入に努めた。		
	・BATの採用、経年火力設備のフェードアウト、バイオマス混焼等の取り組みにより、2022年度は火力発電効率A：1.00、火力発電効率B：42.9%、石炭火力発電効率：43.76%となった。		
本市の区域内に存する電気の需用者に対する地球温暖化の防止に資する取組の実施状況	・CMやホームページで省エネ・節電PRを実施しており、最新の省エネ家電に関する情報や省エネ・節電の手法・アイデアを紹介。 ・お客さま設備におけるエネルギー使用状況を計測調査し、各設備の運用改善等を提案する「エネルギー診断サービス」を実施。		
その他の地球温暖化の防止に貢献する取組の実施状況	・省エネルギー・省資源・リサイクル活動を中国電力グループ全体で展開し、具体的な実践行動項目を示し、取り組みを実施。 ・供給安定性・経済性に優れる石炭火力を将来にわたって活用していくため、「高効率化」と「低炭素化」に資する技術として、電源開発(株)と共同で設立した大崎クールジェン(株)によりCO2分離・回収型IGFC(石炭ガス化燃料電池複合発電)の開発を実施しました。*1 また、カーボンリサイクル技術として、Gas-to-Lipidsバイオプロセスの開発*2、CO2有効利用コンクリートの適用拡大(CO2-SUICOM)*3やトリプルリサイクル技術の開発(CO2-TriCOM)*4に取り組んでいます。 *1 本事業は経済産業省補助事業(2012～2015年度)および国立研究開発法人 新エネルギー産業技術総合開発機構(NEDO)助成事業(2016年度～2022年度)として実施済。 *2 NEDOの受託事業(2020年度～2023年度)として実施中。 *3 NEDOの受託事業(2020年度～2022年度)として実施済。 *4 NEDOの受託事業(2020年度～)として実施中。		

\*4 再生可能エネルギー発電量とは、自社等発電所における再生可能エネルギー(太陽光、風力その他非化石エネルギーのうち、エネルギーとして永続的に使用することができるもの)による発電量のうち市内分をいう。  
 \*5 再生可能エネルギー導入率とは、上記の発電量を自社等発電所における発電量のうち市内分で除したものをいう。  
 \*6 環境価値の確保量とは、自社等発電所における再生可能エネルギーによる発電量、他の一般電気事業者等の発電所における再生可能エネルギーによって発電された電気の購入量及び購入した環境価値の量を合算したもののうち市内分をいう。  
 \*7 環境価値の確保率とは、上記の確保量を電気の供給量のうち市内分で除したものをいう。  
 \*8 未利用エネルギーとは、発電に利用するエネルギーのうち、工場の廃熱又は排圧、廃棄物(バイオマスを除く)の燃焼熱、超高圧地中送電線からの廃熱、変電所の廃熱及び高炉ガスその他の副生ガス等のエネルギーをいう。